

主 題：教会が教会であるために3

聖書箇所：ペテロの手紙第一 5章8－9節

神が望まれるような教会、神が喜んでくださる教会を目指して行くために、私たちはどうすれば良いのかをペテロは私たちに教えてくれています。

A. 羊を牧しなさい：長老に対する命令 1－4節

神の羊である群れの一人一人を大切に養い、世話をし、導き、保護して行くようにと。

B. 長老に従いなさい：若者たちへの命令 5節

自分の意志で自らを下位に置くことです。若者たち以外の人たちがそうであるように、若者たちも、長老たちに、霊的リーダーたちに従って行くようにと勧めました。

C. 謙遜を身に付けなさい：すべての人たちに対する命令 5節

教会員はお互いに対して謙遜であるように、人を自分よりすぐれていると考えて仕えて行きなさい、そして、自分の利益ではなく、他の人の利益を考えて彼らに仕える機会を追求して歩んで行きなさいと教えました。

D. へりくだりなさい (神に対して)：すべての人たちに対する命令 6－7節

神を神として相応しく崇めること、そのために、神を正しく知ることと自分を正しく知ることが必要であることを学びました。そして、私たちが神の前に本当にへりくだったなら、私たちのいっさいの思い煩いを神にゆだねるようになると教えられました。それは神を信頼しているから、私たちに与えられた特権を理解しているからです。神は私たちのことを配慮し、愛情と思いやりにあふれた不眠の世話をしてくださるお方、だから、すべてのことをこの神にゆだねて歩んで行きなさいと教えてくれたのです。

続いて、五つ目の命令から見て行きましょう。

E. 身を慎みなさい 8 a 節

「身を慎み、」、この意味は、落ち着いてぐらつかない、しっかりした自制心をもって生きることであると、ペテロはもうすでに何度も教えました。人を惑わせるものに惑わされることなく、常に正しい判断力をもって選択するようにということをペテロは言っているのです。それは私たちがすぐにこの世のものに惑わされるからです。世に流されることなく（この世的な考え、価値観、生き方など）、何が神の前に正しく、何を為すことが神に喜ばれるのかを考えてそれを選択するのです。これがクリスチャンの、霊的に成長した人の特徴です。いつも神のみこころを考えてそれを正しく選択できる人、そのような信仰者に変えられて行くことを神は望んでおられ、そのように神が変えていってくださる、そのためにも私たちは身を慎むことを学ぶことが必要です。ペテロは1：13にも4：7にもこの「身を慎む」ことを記しています。1：13「ですから、あなたがたは、心を引き締め、身を慎み、イエス・キリストの現われのときあなたがたにもたらされる恵みを、ひたすら待ち望みなさい。」、4：7「万物の終わりが近づきました。ですから、祈りのために、心を整え身を慎みなさい。」と。ペテロはここで「世の終わり」に近いことを言っていますが、このニュースを聞いたある人々が動揺することを彼は知っていたのです。動揺して極端な行動に出る人たちがいたのです。その例がテサロニケの教会でした。そのことをペテロは知った上で、終わりは近いけれど、だからこそ、私たちはしっかりとその中で神が喜ばれることが何であるかを考えてそのような生き方を継続するようにと勧めるのです。

F. 目をさましていなさい 8 a 節

このことばの意味は「油断なく目をさましていつも注意していなさい」ということです。罪の誘惑に対して油断してはならないということです。なぜなら、そのような誘惑が私たちの周りにはあふれているからです。1：13は「心を引き締める」こと「身を慎むこと」、また、4：7でも「心を整える」と「身を慎む」と、二つの動詞が並んで記されています。そして、この8節にも「身を慎み、目をさまして」と同じように書かれています。これは、今すぐにそのように行動を起こしなさいと、それを望んでこのように記しているのです。考えるだけでなく、思うだけでなく、すぐに行動を起こすように、その決断の必要性を強調して訴えるのです。今も私たちの周りには誘惑のわながあるのだから、今すぐ私たちは身を慎んで目をさまして、何が神の前に正しいのかを判断しながら、そのような誘惑に打ち勝って行くようにとペテロは教えるのです。そして、このような命令を与える理由が次に書かれています。

★ なぜ、今すぐ「身を慎み、目をさまして」いることが必要なのか、その理由は？ 8 b 節

1) 敵が存在するから

「あなたがたの敵である悪魔が、」、「悪魔」とはサタンのことです。サタンは被造物でありながら自分を創造主なる神に勝る神としました。神だけがお受けになるその崇拜を自分が受けようとして罪を犯したのです。ですから、彼は神に逆らい続けているのです。彼は聖さにも、正義にも、正しさにもみこころにも逆らうのです。パウロはかつてクリスチャンたちのことを「あなたがたはかつては神の敵であった」と呼んだことがありました。ローマ5：10「**もし敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させられたのなら、和解させられた私たちが、彼のいのちによって救いにあずかるのは、なおさらのことです。**」と、今は確かにキリストによって救いに与っているけれど、かつてのあなたがたは神の敵であったと、救われる前の状態を言っています。私たちは皆、例外なく神の敵として生まれてきました。そして、神の敵であるサタンに従って来たゆえに、私たちも神の敵であったのです。しかし、罪赦されて救われた今、私たちの敵はサタンになったのです。そのことをペテロはここでもう一度教えるのです。私たちには強力な敵がいるのです。その知恵においても力においても私たちはどうも及ぶことがない、そのような敵がいることをペテロはまず、私たちに教えるのです。この敵が存在することを覚えることは大切です。そして、この敵はどんなことを望んでいるのか、それを知ることも必要です。

2) サタンの願望

「ほえたけるししのように、食い尽くすべきものを捜し求めながら、歩き回っています。」

サタンの願いは、自分の敵を「食い尽くす」ことです。このことばは、ヘブル11：29を見ると「**信仰によって、彼らは、かわいた陸地を行くのと同様に紅海を渡りました。エジプト人は、同じようにしようとしましたが、のみこまれてしまいました。**」とあります。イスラエルの民の出エジプトです。神が備えてくださった紅海のかわいた地をイスラエルの民が渡り終わった後、追いかけて来たエジプト人が同じように渡ろうとしたとき、海がもとに戻って彼らは波にのみこまれてしまいました。この「のみこまれてしまった」が「食い尽くす」と同じことばなのです。また、「食い尽くす」ということばには「飲み尽くす」という意味もあることから、70人訳（ヘブル語をギリシャ語に翻訳したもの）ではこの動詞を、大魚がヨナを飲み込んだところで用いています。ヨナ書1：17「**主は大きな魚を備えて、ヨナをのみこませた。ヨナは三日三晩、魚の腹の中にいた。**」。これらのことから「食い尽くす」ということは明らかに「殺す」と関連していることが分かります。ですから、ここで悪魔の敵というのは悪魔を、サタンを信じて彼に従う者を指しているのではないことは明らかです。自分の味方をサタンが攻撃するはずがないからです。攻撃の対象は彼の敵である本当のキリスト者たちです。イエス・キリストを信じ罪赦された者たちです。しかも、主イエスを愛し忠実に歩もうとしている者たちです。サタンはただクリスチャンを苦しめることだけではない、彼らを飲み込むのです。殺してしまおうとするのです。私たちはここで間違っってはなりません。殺してしまうというのはサタンが私たちに苦しめて私たちの救いを奪ってしまうということではありません。救いは永遠に与えられたものです。では、何を言っているのでしょうか？

これはクリスチャンの信仰が活動できなくする、その証を台無しにしようとすることです。そして、そのことを真剣に為しているゆえにペテロは「ほえたけるししのように…捜し求めている」と言います。空腹のライオンがうなり声をあげながら獲物を捜している様子です。必死の思いで真剣にサタンはクリスチャンを弱らせようとするのです。ですから、私たちは気をつけていなければ影響を受けるのです。ペテロはそのことを自分自身の経験からよく分かっていました。サタンの巧妙さを知っていたのです。ペテロとイエスの間にこのようなことがありました。マタイ16：15－23「**イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。：16 シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子キリストです。」…：20 そのとき、イエスは、ご自分がキリストであることをだれにも言ってはならない、と弟子たちを戒められた。：21 その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。：22**するとペテロは、イエスを引き寄せて、いさめ始めた。「主よ。神の御恵みがありますように。そんなことが、あなたに起こるはずはありません。」：23しかし、イエスは振り向いて、ペテロに言われた。「下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。」。イエスのことを「あなたは、生ける神の御子キリストです。」と言ったペテロは正しかったのですが、その後すぐ、イエスがこれから自分人々のために十字架にかかって死ぬことを話されたとき、ペテロはイエスを自分のところに呼んで「イエスさま、そんなことがあってはなりません」といさめ始めました。そのとき、イエスはペテロに「**下がれ。サタン。あなたはわたしの邪魔をするものだ。あなたは神のことを思わないで、人のことを思っている。**」と言われました。ペテロは一瞬のうちにサタンの支配下になってしまったのです。そのことをペテロは知っていたため、気をつけなさいと言うのです。

次のことば、サタンは「歩き回っています」とあります。旧約聖書のヨブ記に神とサタンの会話が出てきます。1：7に「**主はサタンに仰せられた。「おまえはどこから来たのか。」サタンは主に答えて言った。**

「地を行き巡り、そこを歩き回って来ました。」と。この「地を歩く」ということばは旧約聖書のいくつかのみことばを見たとき、「踏んだ地、足の裏で踏むところ、踏み行く地」という意味で、その地を支配する、治めることを象徴的に表わしたことばです。そうすると、このヨブ記を見ても、ペテロの手紙の8節を見ても、サタンは歩き回っている、地を行き巡りそこを歩き回って来たと、つまり、この世はサタンが支配していることを教えているのです。神がそれをお許しになったのです。だから、ヨハネは第一の手紙でこのように言います。Ⅰヨハネ5：19「**私たちは神からの者であり、全世界は悪い者の支配下にあることを知っています。**」と、だれがこの世界を治めているのか、サタンだと教えています。ですから、私たちはこの世の価値観や生き方に惑わされてはいけないうのです。そのようなものから目をそらすことです。正しい判断力が必要なのです。

3) サタンの戦略

サタンはどのように人々に働くのでしょうか？ペテロはサタンの力をよく知っていたので警告しています。この世界はサタンの支配下にあり、私たちは知らず知らずのうちにその影響を受けているのです。

サタンという名：(1) **誘惑者**=Ⅰテサロニケ3：5「**そういうわけで、私も、あれ以上はがまんができません、また誘惑者があなたがたを誘惑して、私たちの労苦がむだになるようなことがあってはいけないうと思って、あなたがたの信仰を知るために、彼を遣わしたのです。**」と、サタンは誘惑するものです。

(2) **偽り者、偽りの父**=ヨハネ8：44「**あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立ってはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。**」

(3) **惑わす者**=黙示録12：9「**こうして、この巨大な竜、すなわち、悪魔とか、サタンとか呼ばれて、全世界を惑わす、あの古い蛇は投げ落とされた。彼は地上に投げ落とされ、彼の使いどもも彼とともに投げ落とされた。**」

誘惑し、嘘つきであり、人々を惑わす者です。このような**サタンがクリスチャンのうちにどのように働いて行くのでしょうか？**彼は二つのことを為そうとします。

(1) **クリスチャンがみことばに逆らうように、逆らう考えをもつようにと働く**

いくつかのケースを見て行きます。一つ目は人類最初の罪、アダムとエバの罪です。創世記3章を見ましょう。1節「さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。**「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」**

サタンの誘惑=**ステップ1** 神のみことばに疑問を投げかけるのです。「神は、ほんとうに言われたのですか。」と。私たちが自分の生活を振り返ったとき、このようなことを経験することがあります。「ほんとうにそのように聖書は教えているの？」、「ほんとうにそのようなことを教会では教えているの？」と聞かれると、「えっ、どうだったかな？、確かそのように教えられた、そのようなメッセージを聞いたけど」と、みことばから確認しようとしないうから、だまされ、サタンの思うつばに嵌ってしまうのです。確認すれば良いことです。いろいろなことで神のみことば、約束に確信を失ったり、疑問を感じたりするのです。そして、**ステップ2** 神のことばを否定するのです。創世記3：4「**そこで、蛇は女に言った。**

「あなたがたは決して死にません。」、神はそのように教えていません。神は「必ず死ぬ」(1：17)と言われました。ところがサタンは「あなたは死なないう」と言うのです。神のことばを否定するのです。そして、それを受け入れると次のステップに移ります。**ステップ3** 神のみことばに代えて嘘を教え始めるのです。5節「**あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。**」と、これは嘘です。あなたが望んでいることをすればいいのだとサタンは私たちに働きかけます。サタンは全然違ったことを言いません。神が言われることに非常によく似たことを言って、私たちを巧みにみことばから彼の勝手な考えへと誘惑して行くのです。

異端と名の付くものがたくさんあります。彼らは巧妙に人々を真理から遠ざけようとしています。聖書を使って真理でないことを人々に教えるのです。サタンはそのようにエバを誘惑し、彼女はその誘惑に負けるのです。神のことばよりもっと良い知らせがここにある！と言って、人々を自分の教えのとりこにしようとするのです。

新約聖書を見てください。使徒5：1－5「**ところが、アナニヤという人は、妻のサツピラとともにその持ち物を売り、2 妻も承知のうえで、その代金の一部を残しておき、ある部分を持って来て、使徒たちの足もとに置いた。3 そこで、ペテロがこう言った。「アナニヤ。どうしてあなたはサタンに心を奪われ、聖霊を欺いて、地所の代金の一部を自分のために残しておいたのか。4 それはもともとあなたのものであり、売ってからもあなたの自由になったのではないか。なぜこのようなことをたくらんだのか。あなたは人を欺いたのではなく、神を欺いたのだ。」5 アナニヤはこのことばを聞くと、倒れて息が絶えた。そして、これを聞いたすべての人に、非常な恐れが生じた。**」。3節に「サタンに心を奪われた」とあります。このことばは「どうしてサタンがあ

なたの心を満たしたのか？」と言ったのです。つまり、この行為はサタンに支配されていたゆえに為された行為だったのです。アナニヤとサツピラが求めたものは人々からの称賛でした。彼らはこのような犠牲を神のために払ったのだということを見せびらかして人々の称賛を得、そして、自分たちのために一部を残して置いたのです。自分たちが霊的な人であると見られたかったのです。人に見せるための行為でした。しかも、彼らのその行為に至らせたのはその前に彼らの心にサタンが働いたからです。パリサイ人のようです。外側だけを飾ろうとするその内側の心が問題であったため、常にイエスはそのことを指摘されていました。この二人も心がサタンに支配されてしまっていたのです。このようなすばらしい信仰者の中にもサタンは見事に働いて、その誘惑によって彼らを罪に陥れてしまったのです。

もう一箇所、コリント第二の手紙を見てください。コリント教会の中で起こった様々な問題です。

1) 信者の思いを惑わす＝Ⅱコリント 11：3「**しかし、蛇が悪巧みによってエバを欺いたように、万一にもあなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真実と貞潔を失うことがあってはと、私は心配しています。**」と、サタンはエバに働いたように私たちの心に働くと言います。私たちの思いを惑わし、私たちが神の前に喜ばれない行為に至るようにと心に働きかけて来ます。

2) 信者の肉体に病をもたらす＝12：7「**また、その啓示があまりにもすばらしいからです。そのために私は、高ぶることのないようにと、肉体に一つのとげを与えられました。それは私が高ぶることのないように、私を打つための、サタンの使いです。**」、すべての病気がサタンからきたものであるとは言えません。しかし、神の許可のもとでそのような病気を与えることがあります。ある時は、神はクリスチャンに死をもたらすこともあります。しかし、ここでパウロが言うように、サタンが何かの病気をパウロの生涯にもたらした、それもサタンのわざであると言うのです。神の許可の上でサタンはそのようなことを為すことができるのです。

3) 不信者の思いをくらませる＝信者ばかりではなく救われていない人のうちにもサタンは働いています。4：4「**そのばあい、この世の神が不信者の思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光にかかわる福音の光を輝かせないようにしているのです。**」と、このような働きをサタンはするのです。彼らがイエスを信じて罪の赦しを受けないようにだまし続けるのです。救いのすばらしさを教えようとしません。

4) 罪を犯した信者の良心に絶望を植え付ける＝2：10, 11「**もしあなたがたが人を赦すなら、私もその人を赦します。私が何かを赦したのなら、私の赦したことは、あなたがたのために、キリストの御前で赦したのです。：11 これは、私たちがサタンに欺かれないためです。私たちはサタンの策略を知らないわけではありません。**」、これは戒規のことです。教会の中で兄弟姉妹が罪を犯した場合、その人が罪を悔い改めるようにその罪を明らかにします。戒規は神への服従のテストであり、神がそれを命じておられます。罪は神ご自身を悲しませるものです。同時に、その罪を赦すことの大切さを教えています。戒規の目的は罪を犯した人がその罪を悔い改めて神のもとに戻って来ることです。そのことをパウロはコリントの教会に対して教えているのです。罪を犯した人がその罪を悔い改めたとき、赦しを与えなさいと。罪を悔い改めた者を心から赦して交わりに回復することは大切です。もし、あなたが赦さないなら、赦さない心を持ち続けているなら、それは「サタンに機会を与える」ことになる、サタンの策略に陥るのです。サタンは「罪の赦しを与えられない」という偽りの教えをもって信者を苦しめ、追い込んで行くのです。クリスチャンの良心に絶望を植え付けて行くのです。あなたのすべての罪を負ってイエスは十字架で死んでくださった、だから、あなたの罪は赦されるのです。しかし、それは分かっているのに、私たちが日々犯す罪に関して、罪の赦しを願うときに、「こんなに罪を犯す私を神はもう赦してはくださらない」と思ってしまううちに、その罪の重さにつぶされてしまいます。これは見事にサタンの策略なのです。だから、サタンに欺かれないように兄弟姉妹の罪を赦しなさいとパウロは教えているのです。

黙示録 12：10には「**そのとき私は、天で大きな声が、こう言うのを聞いた。「今や、私たちの神の救いと力と国と、また、神のキリストの權威が現われた。私たちの兄弟たちの告発者、日夜彼らを私たちの神の御前で訴えている者が投げ落とされたからである。」**」とあります。サタンというのは「告発者」、日夜クリスチャンを神の前で訴えているのです。クリスチャンを誘惑して罪を犯すように働いて行きます。もちろん、私たちが犯すすべての罪はサタンのせいではありません。私たちの罪がそのような罪を生み出すのです。しかし、間違いなくサタンは私たちが証を失って行くように、私たちの内にその信仰が弱るようにと働きます。そして、罪を犯した者を神の前で訴えるのです。

(2) 神のみこころに逆らう(反する)生き方を推進させる

サタンの誘惑はみことばに逆らうようにと働くだけでなく、神のみこころに逆らった生き方をするようにと働くのです。エバもアナニヤもサツピラもそうでした。サタンは彼らの心に働いた、そして、そのような行動へと至ったのです。クリスチャンの心に働き実際に神のみこころに逆らう生き方をするようにと働き続けて行くのです。もし、私たちがこのような誘惑を受けているとしたら、それは信仰に現

われます。信仰が弱るのです。その特徴というのは、1) 主に仕える喜びを失ってしまっている。この世の生き方と同じような生き方をしても罪の思いがない、神に仕え神を礼拝するその喜びを失うのです。もし、あなたがそのような状態にいるなら、あなたの信仰を吟味することです。2) 証の力を失います。その生き方がこの世と変わらないからです。そうすると、人々はその人のうちにキリストを見ません。3) 教会全体の証が弱まって行きます。

G) 「立ち向かいなさい」 9 節

「堅く信仰に立って、この悪魔に立ち向かいなさい。ご承知のように、世にあるあなたがたの兄弟である人々は同じ苦しみを通して来たのです。」、これが第7番目の命令です。サタンの誘惑に対して勝利することができるのです。「立ち向かう」とは「反対」ということばと「立たせる」ということばが合成してできたことばで「反対する」という意味です。断固としてそのサタンの誘惑に屈しない、反対するという、その決心です。サタンに敗北宣言をしないのです。どうすれば良いのでしょうか？

★ サタンの誘惑に勝利する秘訣は？

・**堅く信仰に立つ**=みことばがどのように教えているのかを見ることです。神がどう教えているのかを知ること、それによって誘惑に勝利して行くことができるのです。私たちが勝利に導くのは神のみことばです。I ヨハネ 5：4, 5 **「なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。」**と、イエス・キリストを信じた者は勝利者だと神は言われるのです。

また、ヤコブの手紙 4：7には**「ですから、神に従いなさい。そして、悪魔に立ち向かいなさい。そうすれば、悪魔はあなたがたから逃げ去ります。」**とあります。私たちに必要なことは、みことばにしっかり立ち、この神に従い続けて行くことです。そのとき、私たちはこのサタンに神によって勝利して行くのです。

この戦いは私たちクリスチャン一人一人が経験することです。だから、皆が必要なのです。教会に私たちが集まるのは、お互いがこのような危険にさらされていることを知っているわけですから、お互いのために祈って行くのです。みことばをもって励まして行くのです。私たちがひとつとなって、勝利ある生活をもって、キリストを証して行くのです。

あなたは勝利者です！ イエス・キリストは敢然とその死からよみがえって悪魔の力を打ち破ってください、この1週間、それぞれのところで勝利者として神の助けによって歩んでください。私たちがどこにあっても、この神こそがサタンに打ち勝たれた勝利の生ける神であることを証してゆくこと、それが私たちの大きな責任です。